

## 砥用町文化交流センター 「ひびき」

# TOMOCHI TOWN CULTURE AND COMMUNICATION CENTER

東に九州山地の山並みを望み、  
町のほぼ中央を清流緑川が流れる砥用町。  
「石橋と山と湖の里」と呼ばれる  
この町の美しい自然との調和を最も大切にしながら、  
「砥用町文化交流センター」は造られた。  
緑の風と、豊かに降り注ぐ光、  
森の町らしく木材を存分に生かした空間デザインが、  
安らぎと開放感を与える。  
中には、コンサートや演劇などを楽しめる  
本格的ホール、図書館、パソコン室などが完備。  
町民の文化の拠点、  
そして、ふれあいのコミュニティスペースとなっている。  
人と自然、人と人が響き合う場にふさわしく  
愛称は「ひびき」と名づけられた。



くまもとアートポリス  
kumamoto artpolis

熊本県 くまもとアートポリス事務局  
熊本県土木部建築課  
〒862-8570 熊本市水前寺6-18-1  
☎ 096-383-1111 (6215)





## 砥用町文化交流センター 「ひびき」

### ● 建築概要

まず心したのは、建築が砥用の特徴である山並を切らないこと。つまりできるだけ低くして、その代わりに横に長く見せること。ここからワークショップでのあり得る演目についての議論を元に、フライタワーを低くし、また高齢者の多いことからフラットに近いホールとし、更に、地形を生かし、二階建てではあっても両方にアプローチ・レベルを持つ構成とした。通風遮光を中心とする環境重視型で、空調も領域冷暖房という負担の少ない方式を、おそらく日本で初めて採用した。森の町なので木を使いたいというリクエストに、ホール屋根を支えるトラスや、遮光ルーバーを兼ねたフィン状のカーテンウォールのマリオン、あるいは内外のリズムをつくる縦格子などを導入し、庇などと共々にデザイン上の特徴とした。曲面壁のタイルは山々の緑と合わせ、床に降りてくると漸次土や木に近い色になり、さらに日の照り返しを美しいさざ波としてホワイエに誘導するプールへと連続していく。光と風とが空間にリズムを付与する。排煙通風を兼ねる二つの照明タワーは、夜間には大きなぼんぼりのように砥用の夜景を彩る。

### ● 設計者

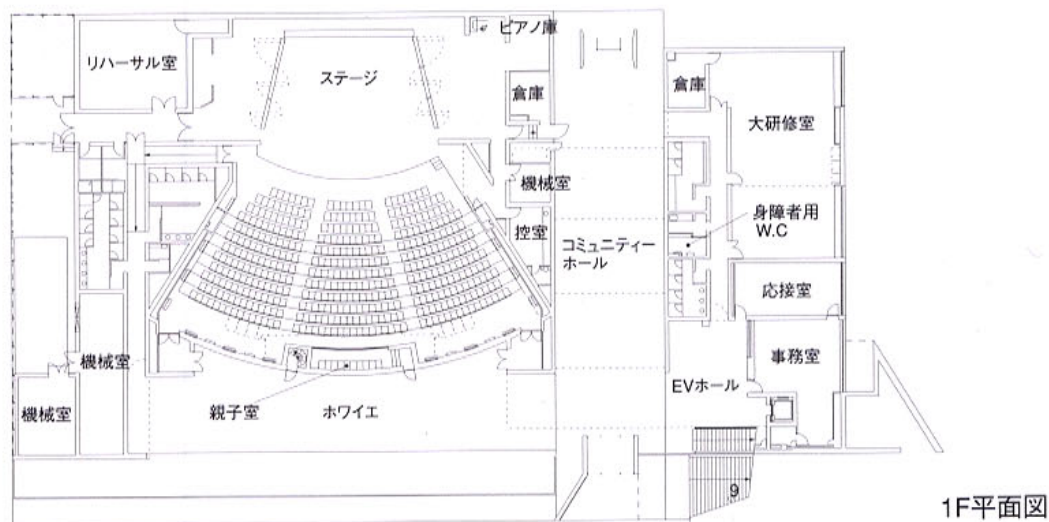
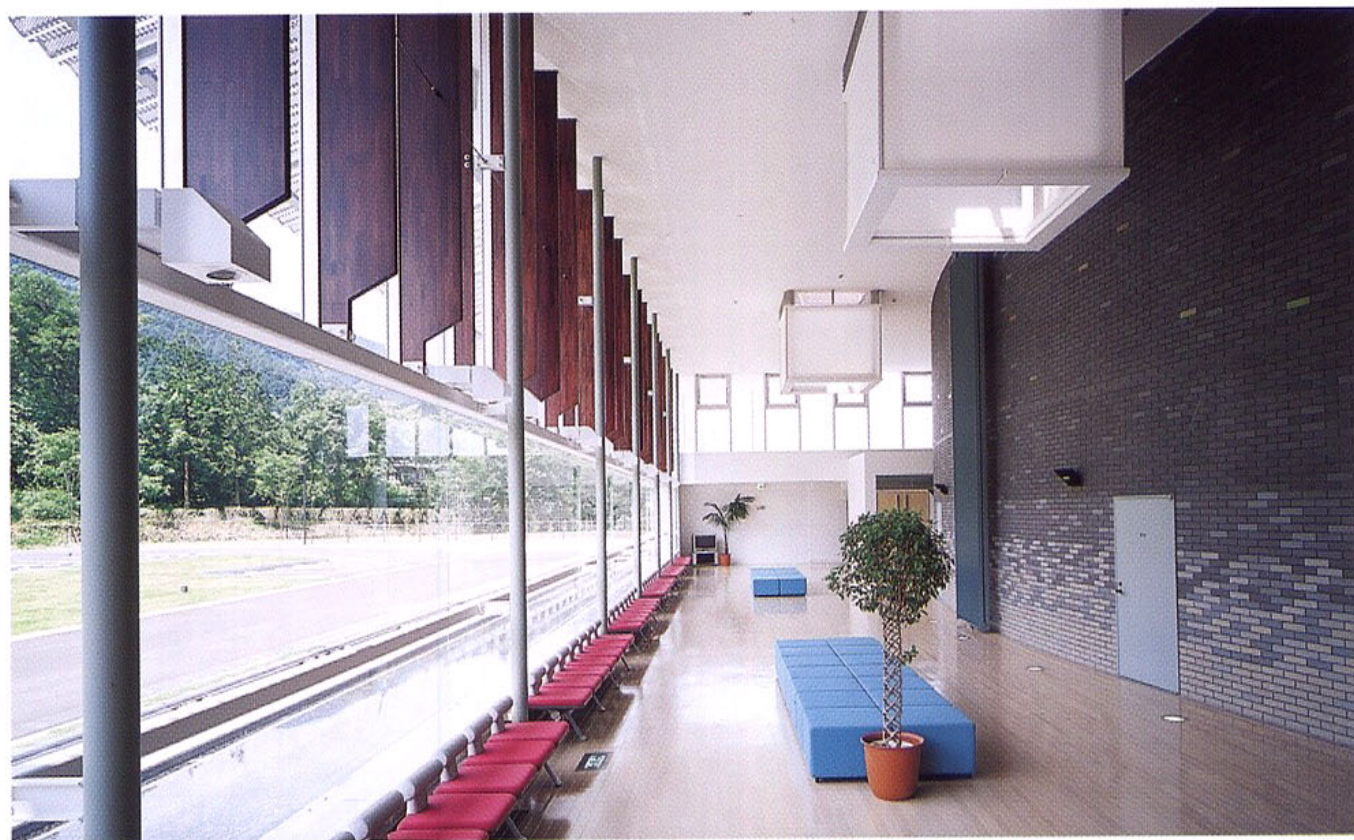
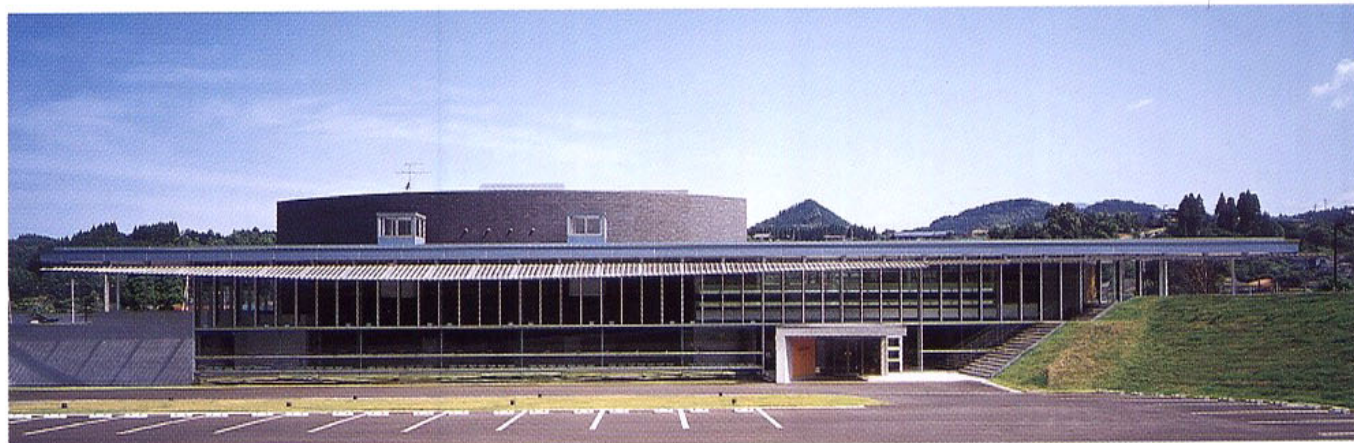


#### 八束 はじめ (やつか はじめ)

1948年 山形県生まれ  
1972年 東京大学工学部都市工学科卒業  
1978年 東京大学都市工学科博士課程中退  
磯崎新アトリエ  
1984年 八束はじめ建築計画設計室設立  
1985年 ユー・ピー・エムと改称

#### ● 主な作品

文教大学センターハウス(3号館)+8号館、  
文教大学体育館、白石市情報センター、泰野の医院、  
等々力K2ビル、東京芸夢本社ビル



### ● 建築データ

名称/砥用町文化交流センター「ひびき」  
所在地/下益城郡砥用町永富1483  
主要用途/文化ホール、公民館  
事業主体/砥用町  
設計者/八束はじめ  
施工者 建築/光進建設株式会社  
舞台機構設備/株式会社サンケンエンジニアリング  
外構/株式会社津川建設、株式会社坂中建設、  
株式会社砥用電設

敷地面積/11,963.60㎡  
建築面積/2,119.65㎡

延面積/2,574.59㎡  
階数/地上2階  
構造/鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造、木造  
外部仕上 屋根/砂付きルーフィング、アスファルト防水、  
カラーステンレス平葺  
外壁/コンクリート打放撥水剤仕上、  
フレキシブルボードAEP塗装、  
ヒバルーバーBM注入剤30×60  
@120木材保護着色塗装

施工期間/2001年2月~2002年3月  
総工事費/1,141百万円